

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年10月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4072800321
法人名	特定非営利活動法人 さくら
事業所名	グループホーム さくら
所在地 (電話番号)	福岡県中間市中尾三丁目10番25号 (電話) 093-246-0260
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成 19年 9月 11日

## 【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 6月 15日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	9 人
常勤	7 人
非常勤	3 人
常勤換算	4 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 / <del>単独</del>	<del>新築</del> / 改築
建物構造	軽量鉄骨平屋造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	<del>有</del> / <del>無</del>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	550 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,200円			

### (4) 利用者の概要 (平成 年 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.8 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩尾内科医院 ・ 高村歯科医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは静かな住宅街にあり、職員の弾く電子ピアノの演奏を聴きながら昼食を摂る光景はとても優雅で和やかな雰囲気である。運営者、職員は利用者一人ひとりのその人らしさを大切に日々の支援がなされているため、利用者の表情は明るく穏やかで管理者・職員・利用者の信頼関係がしっかり構築されており、今後更なる発展が期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)  外部評価の結果を管理者・職員で話し合っ改善に取り組んでいる。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)  今回の自己評価内容について職員へ具体的に説明して意見を聴き、評価を活かした改善に取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)  運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。地域包括支援センター担当者から認知症サポーター養成講座開催の提案があり、地域住民への講座開催を10月頃までに行なう予定になっている。また、更新申請や変更申請などの機会に市町村担当者を訪ねてホーム運営やサービス内容について報告し、サービスの質の向上にともに取り組んでいる。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)  家族面会時に暮らしぶりなど報告し、体調変化ある場合はその都度電話にて連絡している。また、家族会を設けて家族からの意見、要望などを言ってもらおう働きかけている。「食事を一緒にする機会が欲しい」と家族の要望あり、家族の面会時に昼食を利用者と一緒に摂るように勧めて実施している。調査当日も一組の家族が昼食を共にされていた。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  自治会に加入して地域の清掃作業や回覧板届けなど利用者と共に参加している。また、盆踊りへ参加したり、ホームでのお月見会や花火大会へ地域住民を招待して交流している。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成18年の制度改革に伴い、「・・・生活支援を通して、心豊かな町づくりに参加し、生き活きた地域福祉に貢献・・・」と地域密着型サービスとしての理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員との理念の共有、実践のために利用者との日々の関わりの場面やミーティング・会議などの機会に話し合い意識付けがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して地域の清掃作業や回覧板届けなど利用者と共に参加している。また、盆踊りへ参加したり、ホームでのお月見会や花火大会へ地域住民を招待して交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を管理者・職員で話し合って改善に取り組んでいる。今回の自己評価内容についても職員へ具体的に説明して意見を聴き、評価を活かした改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。地域包括支援センター担当者から認知症サポーター養成講座開催の提案があり、地域住民への講座開催を10月頃までに行なう予定である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	更新申請や変更申請などの機会に市町村担当者を訪ねてホーム運営やサービス内容について報告し、サービスの質の向上に共に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	年間研修計画を立てて権利擁護事業、成年後見制度についての研修会を1月に実施して、職員の制度への理解を深めている。また、利用者の入居時に権利擁護、成年後見制度についての説明をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用者負担金、預かり金の出納明細、ホーム便り等は個別にホーム内の所定の場所に置き、家族が面会時に確認して利用料金の支払いをしている。暮らしぶりについては家族面会時に報告しており、体調変化などあった場合はその都度電話にて家族へ知らせている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けており、家族から意見を言ってもらうように働きかけている。その中で「年数回一緒に食事をする機会が欲しい」との家族の要望を受けて、家族面会の機会に昼食を利用者と一緒にご飯のように勤めて実施している。調査当日も一組の家族が昼食を共にされていた。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員と利用者の馴染みの関係、一人ひとりの利用者を理解することの重要性を認識しており、職員の離職を抑えるために、職員・利用者との信頼関係構築の努力をして過去2年間職員の離職が防止できている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人代表者は職員が生き生きと勤務し、社会参加がしやすいように公休希望や、勤務日の変更などの要望には快く応じている。職員の募集や採用にあたっては年齢や性別を理由に採用対象から排除することはない。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム独自に作成した年間研修計画の中に人権教育、啓発活動についての研修会を予定して実施している。外部研修にも職員が参加して、内部研修会で報告し人権教育・啓発活動に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画、新人職員研修計画書がホーム独自に作成されており、計画内容に沿って毎月全職員での研修が実施されている。また、外部研修受講者は内部研修の場で報告して研修内容の共有を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入して管理者、職員が勉強会へ参加し同業者との交流を図るとともに、内部研修会で報告して職員間で共有し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族にホームの見学を勧め、更に利用開始時には1週間毎日家族の訪問をお願いして、環境の変化で利用者が戸惑うことなく安心感を持てるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	草取りを一緒に行いながら野菜の栽培方法や草花のさし芽の方法を教わったり、また、ひと時を一緒に過ごすなかで過去の様々な職業についての話をたくさん聞き、職員が学ぶことが多く利用者との支えあう関係が築かれている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活のかかわりの中で、利用者の言葉や表情から思いや希望を把握するようにつとめている。意思疎通の困難な利用者は家族の協力を求めて情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者主体の暮らしを反映させるよう、ご本人や家族との面談を重視しアセスメントを作成している。また、本人・家族の希望をスタッフ会議で共有し、家族の面会日を利用して担当者会議を開き、介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護経過表を基に、ADL等評価票で定期的に一人ひとりの状態変化を検討して職員、家族、関係者が話し合っって現状に即した介護計画の見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1年前まで地域の高齢者を受け入れていたが、利用者が不穏状態になるため、現在受け入れていない。しかし、家族がホームでの宿泊を希望時には、宿泊できるように食事等の支援をしている。		
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時に説明して、かかりつけ医、事業所の提携医のどちらかを本人・家族の希望で決めている。受診は基本的に家族同伴で、職員は緊急時や家族が付き添えない場合や医師に説明が必要な時などに支援している。歯科医など往診を受けるケースもある。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の終末期介護は行なわない方針なので、入居時に本人・家族に説明して了解を得ている。状態変化で重度化した場合は早期より職員、家族、かかりつけ医など関係者との連絡を密にして方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の、尊厳を最も大切にする言葉づかいや排泄等への対応についてミーティングで常に職員の意識向上を図っている。個人情報については記録紙の保管や秘密保持を徹底しており事務室で保管管理されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食を遅い時間に摂る方や毎日散歩を楽しむ方、草花の手入れや絵画の手ほどき、カラオケを楽しむ方等利用者一人ひとりのペースにそった支援をしている		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が調理、配膳した食事を職員の弾く電子ピアノの演奏を聴きながら和やかな雰囲気の中で利用者と職員1名が食事を摂り、他の職員は見守りや介助にあたっている。食後の引膳のみ利用者がしているが、調理や配膳など準備段階で一緒に行なう様子がみられなかった。	○	調理から片付けまでの段階で可能な範囲を利用者と職員が一緒に行ない、みんなで同じテーブルを囲み介助や見守りをしながら一緒に楽しく食事をして欲しい。



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回13時30頃からの入浴時間をおおよそ決めているが、毎日の入浴の希望があれば職員の都合で拒むことなく支援している。利用者が逆に入浴を拒む場合は、職員が連携して言葉かけや対応を工夫し、柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の得意分野で、一人ひとりの力を発揮できるように、野菜作りや花壇の手入れ、ちぎり絵、折り紙など利用者の経験と知恵を取り入れている。また、絵画やカラオケは先生の手ほどきを受け発表の場を作っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を日課にしている人はホーム周辺を、足の不自由な人は職員が見守り外出の機会を作っており、近隣の方とも顔見知りになっている。季節の良い時は花見やドライブも楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠している。日中利用者に外出する様子が見られる場合は、職員がさりげなく声かけしたり、外出に付き添って事故のないよう見守りを徹底している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急避難経路の見取り図、マニュアルが作成しており、今年5月に避難訓練を実施している。11月には消防署、地域住民と合同での避難訓練を実施予定で、ホームの前に位置する地区の公民館が避難場所になっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注専門業者に委託して栄養バランスを考えた昼食と夕食を献立に合わせた材料とセットで毎日届けてもらっている。毎日の介護経過表で食事、水分摂取状況を確認しており、カロリー制限の必要な方や水分摂取を嫌う方など一人ひとりの状態に合わせて個別に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は広く、ゆったり過ごせるようなスペースを確保されている。天井が高く、天窓で明るく、いつでも外気を取り入れる様に工夫されている。さりげなく野の花を活け季節感を味わえるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室の入り口には、本人の作品(折り紙・ちぎり絵など)を飾りつけ、自分の家だと意識して貰えるように工夫されている。居室は収納場所を広くとり、利用者が自由に衣類の取替えが出来るように配慮している。</p>		